

東京都立福生高等学校全日制課程 令和7年度学校経営報告

<目標への取組と自己評価>

目標と方策	取組と自己評価	達成状況
生徒が能動的に授業に参加し積極的な学習活動を通じて思考力・判断力・表現力を伸ばすことができる授業改善を図り、教科指導の質を向上させる。相互授業見学により授業力の向上を図る。	一人1台端末での新たな学びも定着しはじめ、生徒が道具として活用する様子が見られ、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業も多くなってきたが、来年度以降も授業におけるDX推進は課題である。	B
一人1台端末を活用し、週末などに学習課題などを課しながら、自ら学び進んで学習する習慣を確立させるとともに、時間を効果的に使う習慣を身に付けさせ家庭学習時間を増加させる。	長期休業中の補習・補講の実施状況 ア 開講講座数 : 延べ 36 講座 イ 実施日数 : 延べ 85 日間 ウ 受講者人数 : 延べ 294 人	B
「英語教育研究推進校」として、英語の授業を生徒が英語を使う場とするために、授業改善を行う。また、GTECにより生徒の4技能別英語力を把握し、指導方法を改善するなど英語4技能の力の育成を図り、A2レベルを超える生徒が、1学年10%以上、2学年30%以上となるように取り組む。	英語4技能をバランスよく指導し、実践的なコミュニケーション能力を育成する授業の推進に取り組んだ。今年度のGTECではスピーキングの伸び率が非常に高かった。今年度より英検の全員受験(2学年)実施。英検2級合格者34名、準2級合格者84名。CEFR A2レベル生徒1年5%、2年30%	A
「海外学校間交流推進校」として、横田ハイスクールとの定期的交流及びヨルダンの生徒等との交流活動を推進する。	姉妹校の横田ハイスクールと定期的交流とクッキングコンテスト出場を実施。姉妹校となったフランスのリセ・ヴォルテール高校に短期留学。インドの高校生が訪問し交流した。	B
月1回以上の教科主任会を実施し、教科で模試分析を行い授業改善に活かすなど、組織的な教科指導を行う。また、その状況を全教員で共有する。	今年度は教科による模試分析を徹底し、授業改善に取り組んだ。悉皆の基礎学力研究会による情報共有及びケース会議を実施し、全教員が生徒の学力向上の様子を実感でき、自信をつけたことが大きかった。	A
進路シラバスを完成させ、組織的な進路指導を進める。「進学指導研究校」として模試結果分析による学力推移の把握、面談を通しての指導により第一志望への進路実現を図る。進学クラス生徒の仲間意識を醸成する。	各学年面談回数 1年 3回 2年 3回 3年 2回 進学クラスの生徒たちの仲間意識が高まり、一般受験をする生徒が昨年度より大きく増えた。	A
部活動の効率的な練習を進め、家庭学習時間を確保し、心と体のバランスの取れた成長を図る。ベスト16以上又はそれに比肩する結果を目指す。	各部成績 陸上部女子駅伝都8位、男子駅伝都9位。卓球部都ベスト32。柔道部女子個人52kg級ベスト16。	B
生活指導指針に基づき、生活指導部と学年が連携して身だしなみ指導や遅刻指導等を実施し、規範意識を育成するとともに基本的な生活習慣の確立を図る。	生活指導部を中心に各学年との連携の下、年間を通して、朝の立ち番や登校指導、遅刻指導を行った。また、始業式・終業式において身だしなみ指導を実施した。校則について見直しを図った。	B
安全教育の充実を図る。特に災害安全及び交通安全(自転車事故防止)指導を徹底させる。	毎朝の立ち番指導を通じて自転車通学者に対しヘルメット着用指導を実施。着用率70%	B
学校案内を刷新し、PR活動を充実させ、地域近隣中学校、塾等に学校を理解してもらう。ホームページを毎日更新し、閲覧者数を増やす。	ホームページ更新回数450回以上、閲覧回数は100万回を超えた。学校説明会参加者数2466人、ただし学校PR活動は、入試倍率には結びつかなかった。	A
いじめ・体罰を許さない校内での雰囲気や教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導を行う。	セーフティ教室やHR活動を通してSOSの出し方に関する指導を行った。心配な生徒の状況については全教員で情報共有を図った。	B
生命を尊重する心の育成やSOSの出し方に関する教育など、ストレスへの対処方法を身に付けさせ自殺予防を図り、特別支援教育など生徒一人一人に合わせた教育を行う。	福生市いじめ防止サミットへの生徒参加。特別指導になった生徒をSCにつなげることで「指導より支援」の体制作りをした。SCの判断から発達検査を実施し支援体制のできた生徒3名。	B
体力テストや体育祭等の体育的行事を計画的に実施し、体力や健康に関する意識啓発を図り、一層の体力向上を目指す。	体力テスト結果を踏まえた授業改善や体育的行事により体力向上が図れた。部活動指導員の拡充を図り、効率的な部活動指導や一層の体力向上に努めた。	B
授業、行事、部活動等、学校におけるすべての活動を通じて「チャレンジ精神」と「自立心」を育む。	教育活動全体を通じて、全教員が「チャレンジ精神」と「自立心」を育む教育を実践した。それにより、生徒が自ら新しいことにチャレンジする気風が生まれた。	A
計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、年次有給休暇の計画的な取得を推進する。	産業医による面接指導や出産支援休暇の取得促進など、職員一人一人の働き方・休み方の改善・支援に努めた。15日以上有給休暇取得者19名、子どもの看護休暇取得9名	B

＜学校運営連絡協議会委員評価＞

学校が良くなったと答えた協議委員（全7名）

そう思う 4名 多少そう思う 3名

＜数値目標とその結果＞

令和7年度の実績		6年度←5年度←4年度←3年度	
①	生徒の授業満足度	85%	83.7%←86.4%←88.9%←87.1%
②	進路決定率	94.6%	91.7%←93.4%←94.7%←93.1%
③	4年制大学進学率	51.0%	51.7%←47% ← 47% ← 45%
④	GMA RCH現役合格者数	2名	0名 ← 2名 ← 7名 ← 1名
⑤	部活動加入率	69.8%	72.0%←79.3%←82.2%←82.9%
⑥	推薦入試倍率	3.49倍	3.29倍←2.82倍←3.55倍←2.93倍
⑦	一次学力入試倍率	1.10倍	1.15倍←1.29倍←1.25倍←1.23倍
⑧	学校説明会参加者数	2466名	2066名←2000名←1720名←1222名

＜次年度以降の課題と対応策＞

項目	課題	対応策	重要度
学習指導	進路実現に向けた取組	① 外部模試を活用した生徒の学力分析を行い、学力の到達目標を具体的に設定し共有することを通して、組織的な授業改善を進める。 ② 「生徒一人1台端末」を活用した授業を工夫し、個別最適化の学びを推進し、生徒の学力向上とともに教員の指導力向上に取り組む ③ 英語教育を充実させ、英語4技能をバランスよく指導し、英語でのコミュニケーション能力を育成する。 ④ 学校での補習・補講のみならず、家庭での学習時間の確保に工夫・改善を図る。	A
	進路に対する意識向上と進路実現	① 完成した進路シラバスの全体計画を再度見直し、生徒の実態に即して適宜修正を加えるとともに、進路指導部主導の進路活動や進路行事を組織的に行う。 ② 4年制大学進学希望者の仲間意識を醸成するための進学クラスと総合型選抜による進学を目指す一般クラスをともに充実させ、生徒の進路に対する意識向上を図るとともに、生徒一人一人の状況を全教員で共有し個に応じた支援に努め、生徒の希望進路を実現する。 ③ 保護者へ向けた進路情報の発信の充実や、保護者への進路に関する啓発活動など保護者との連携した指導を充実させる。	A
特別活動	部活動の活性化	① 定時制併置校のため、平日の活動時間に制約がある中、活動内容を常に見直し、短時間で効率的な活動を行うよう工夫改善を図る。 ② 市民文化祭への参加や地域の小中学校との連携など、地域に開かれた部活動を推進する。 ③ 部活動指導員など外部指導者を有効に活用して、部活動顧問の負担軽減を図る。	B
その他	働き方改革の推進	① 必要に応じて産業医による面接を実施し、テレワークや時差勤務を活用することにより、ライフ・ワーク・バランスを保ち、教職員の心身の健康の保持・増進を図る。 ② 職層に応じた役割分担を明確にし、業務改善に組織的に取り組むことにより、業務の効率化を図り、在校時間の削減に努める。	A
	いじめ対策	① いじめ総合対策に基づく校内研修を実施し、全教員でいじめを未然に防止する校内体制を整える。 ② 学級活動や部活動、学校行事など、様々な機会を捉えて、豊かな人間関係構築の取組を推進する。 ③ いじめや自死の抑止に向け、生徒がSOSを発信しやすい学校づくりやSNS東京ルール周知徹底の取組を強化する。	B
	発達障害の疑いがある等課題のある生徒への対応	① 不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対して、担任・特別支援教育コーディネーター・SC等が連携をとり、「指導より支援」を合言葉に、すべての教職員が情報の共有を図ることができる校内体制を確立する。また、外部機関との連携を積極的に図り、生徒への適切な支援に努める。	A